

NASCARファンは、レースをサポートするスポンサーに義理堅い。例えばジェフ・ゴードンのファンなら必ずペプシだし、アーンハート・アーミーならコカ・コーラだ。ジャンクフードからポストイット、はては軍隊までがスポンサーに名乗りを上げているので、その気になれば衣食住のほとんどをNASCARのスポンサーでまかなうことができるのである。そして、ディープなファンが選ぶガソリンといえば、それはもう間違いなくオフィシャル燃料のSUNOCOしかありえない。タイヤがグッドイヤーのワンメイクであるように、NASCARといえばスノコなのである。

スノコは、NASCARと契約を結ぶ以前から、全米で400ものレーストラックと40以上のシリーズで使われていた。ぎりぎりのチューニングを施されたレーシングエンジンは、ハイパワーを絞り出しているがユエに時に繊細でもあった。自然と、パワーの源となるガソリンのチョイスにはシビアにならざるを得ないが、そんな彼らに選ばれたのがスノコだったのだ。そして、その評判は、コンペティションシーンを離れ、アメリカ中に知れ渡っていた。クルマ社会の彼の国では、ガソリンは生活必需品。やれ〇〇のガスはXXだの、といった情報が知れ渡るのも早く、人々の目も確かなのだ。一人一人が身銭を切ってテストを繰り返している巨大な市場、そこで生まれた実生活に根付いた正確な口コミほど、真実を語るものはないのである。高い競争率を誇る北米マーケットで、人々の信頼を得ている高性能ガソリン。それが、スノコなのである。



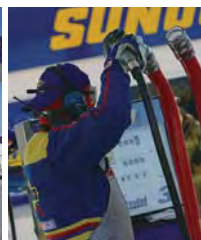
スノコのレーシング燃料がそくそくと給油されるラッシュアワー。



SUNOCO is the best
in class in the race fuel industry

NASCARオフィシャルガスといえば スノコなのだ。

ストックカーの心臓部は、今も変わらぬプッシュロッドV8。
800馬力を軽々と越えるハイパワーの源が、スノコの
レーシングガスだ。“SUNOCOダイヤモンド”は
NASCARに欠かせぬアイコンなのである。



写真上/1本12ガロン(約46リットル)のダンプ缶を、ピットウォール内で抱えるピットクルー。カップカーは22ガロンタンクだから、2本弱を飲み込んでしまう。ダンプ缶への給油は、サーキット内のスタンドで行う。スタートの1時間前には、キャリアに缶を積んだチームクルーが列を作る。缶への給油は、公正を期すためにスノコのスタッフが行い、クルーはスタンドへの立ち入りすら許されない。写真左下/カップカーフロントフェンダー、そのエンド部分には、SUNOCOのステッカーが貼られている。このステッカーがオフィシャル燃料の証だ。

SUNOCOの新ブランド×4が登場。

オイルにこだわりを持つユーザーへ向けて、プレミアムな自動車用オイルが登場。
従来のSUNOCOファンのみならず、幅広いターゲットにアピールすること請け合いだ。

CALL/日本サン石油(株) (Phone:03-3238-0231 / URL:www.sunoco.co.jp)

Opulent

(オペレント)

業界初の最高級プレミアムオイル

高性能ベースオイル“エステル”を、贅沢に3種類も組み合わせた最強のエンジンオイル。指定の代理店、販売店のみで取り扱われる至高の一品だ。



20W-60
4800円/1リットル

20W-60
4800円/1リットル



20W-60
4800円/1リットル

BRILL

(ブリル)

競技・レースの過酷な戦いに

特殊エステルをSUNOCO独自の技術でブレンドした、レーシングスペックのエンジンオイル。混ぜ合わせることも可能なため、あらゆる競技に使用できる。



17.5W-60
9600円/4リットル

0W-20
9600円/4リットル



12.5W-40
9600円/4リットル

Svelt

(スヴェルト)

さらなる快適な走りを実現

従来のオイルよりも更に、耐熱性、耐摩耗性を向上させたスヴェルトは、エンジン内部の損傷を防ぐことができる。クルマ好きのあなたに。(1リットル、4リットル、20リットル、200リットルが有。0W-20のみ3リットルの設定有)



5W-40
6000円/4リットル

5W-50
7000円/4リットル



0W-20
5400円/4リットル

airy

(エアリー)

コンパクトカーや軽自動車に

エステルを配合することにより、耐熱性、せん断安定性が飛躍的に向上。排気量の小さな乗用車に適した設計だ。(1リットル、4リットル、20リットル、200リットルが有。5W-20、5W-30のみ3リットルの設定有)



5W-20
3980円/4リットル



5W-30
3980円/4リットル



サン・オイル・カンパニー(SUNOCO)とレースのつながりは長い。'60年代後半には、ベンスキーが走らせたスノコ・カマロが大活躍。マーク・ドナヒューの駆るカーナンバー6は、SCCAトランザムシリーズでチャンプに輝いた。

現代は、クルマを単なる移動手段としてとらえる人と、こだわりをもって接する人とはつきりとわかれるのだという。それに伴い、自動車用のオイルも低価格な商品とハイエンドプロダクトとの二極化が進んでいる。そんな中、SUNOCOから新しいブランドが登場した。

ターゲットは、オイルにこだわるユーザーたち。つまり、ちよつとうるさい顧客層をも唸らせる高品質なオイルである。配合されるのは、独自に開発された“エステル”だ。これは、高性能ベースオイルの一種で、優れた潤滑性や耐蒸発性、そして耐摩耗性を強化する優れモノなのだ。さらに、一般的に用いられるプロペラではなく、エアリーを使うことで不純物の混入を防ぐ徹底した品質管理。日本サン石油が日本国内の自社工場で作発・製造をおこなった新ブランドは、アメ車はもちろん、日本車やヨーロッパ車にもベストマッチングをみせる、高級オイルブランドなのである。